

環境データ

2023年度

まかせられる人が、いる。



NISHIMATSU

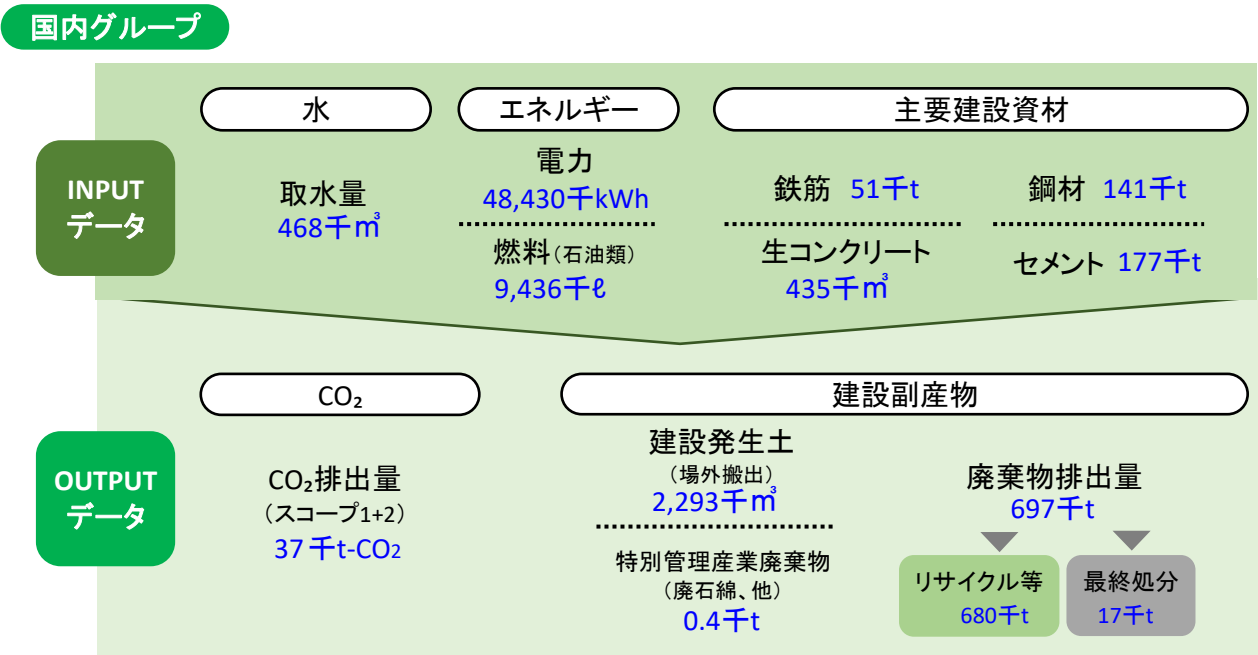
目 次

	ページ
I マテリアルバランス	3
II CO ₂ 排出量	5
国内施工活動におけるCO ₂ 排出量	5
国内グループ会社のCO ₂ 排出量	8
スコープ別CO ₂ 排出量（グループ全体）	9
III 取水量	10
IV 建設廃棄物	10
V 有害廃棄物（アスベスト等）	10
VI 電子マニフェスト	10
VII 独立第三者保証報告書	11

■ マテリアルバランス

< 国内グループの事業活動における環境負荷データ >

下図は、当社国内グループの2023年4月～2024年3月の事業活動に伴う環境負荷を電力や水、建設資材などの資源消費（INPUT）と、CO₂や廃棄物などの排出（OUTPUT）に分けて示しています。

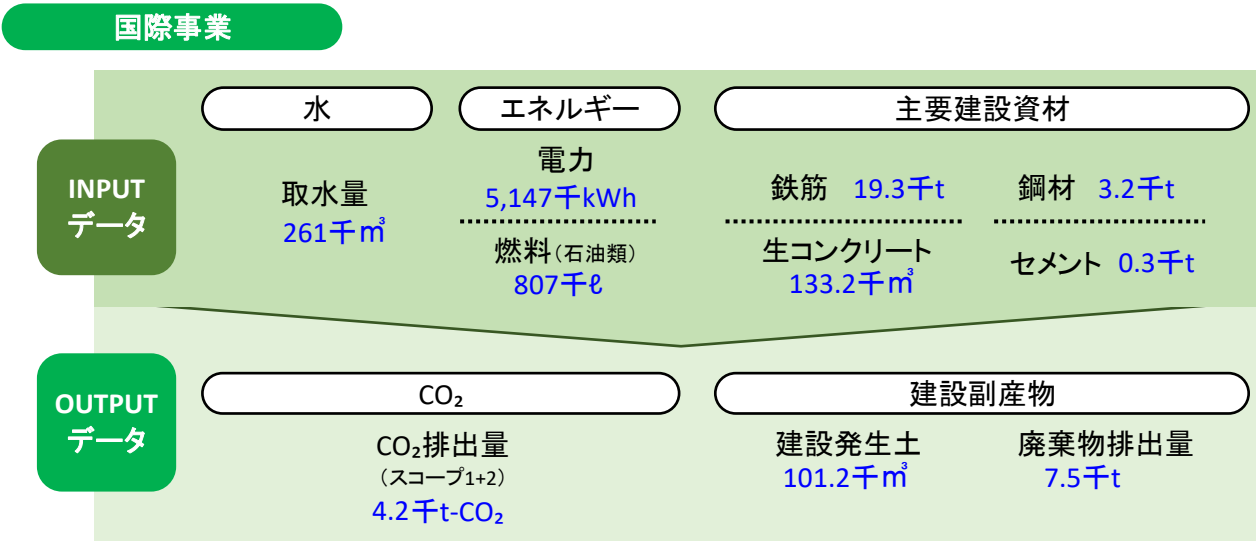


※施工のCO₂排出量および取水量はサンプリング調査による
※国内グループの範囲：西松建設（土木/建築の施工活動、オフィス等施工以外の活動、アセットバリューアッド事業）および連結子会社（西松地所、サイテックファーム）
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

■マテリアルバランス

< 国際事業における環境負荷データ >

下図は、当社の2023年4月～2024年3月の国際事業における環境負荷を、電力や水、建設資材などの資源消費 (INPUT)と、CO₂や廃棄物などの排出 (OUTPUT)とに分けて示しています。



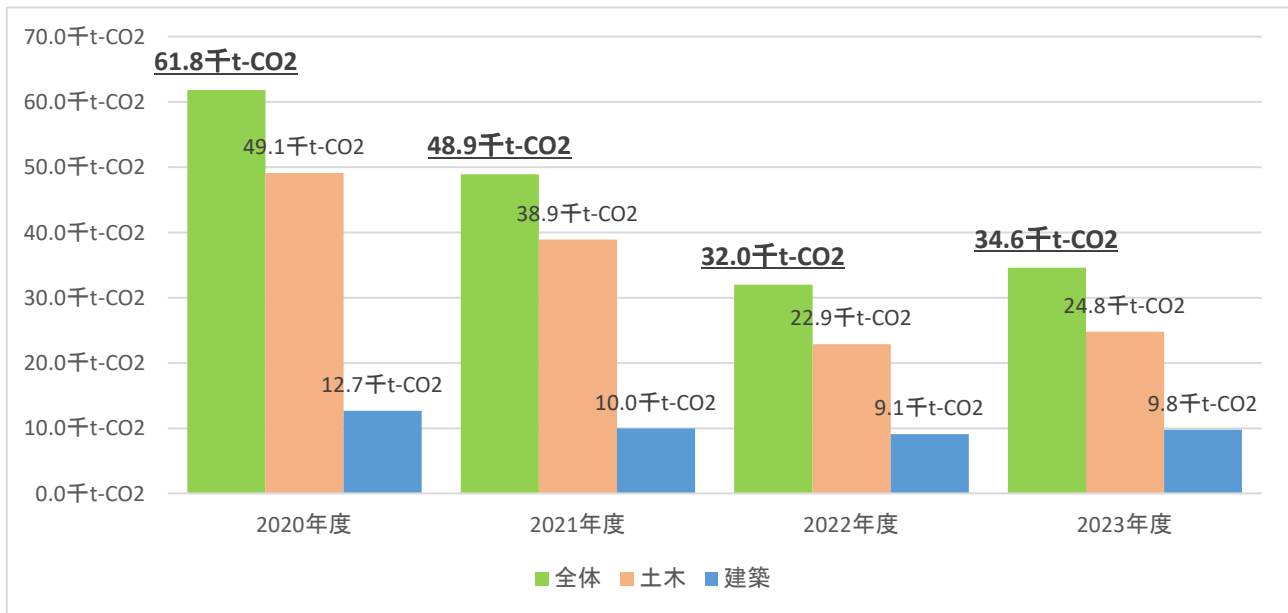
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による
※国際事業の範囲: フィリピン・タイ・シンガポール・ベトナムの施工現場と支店・営業所

■国内施工活動におけるCO₂排出量〈1〉

CO₂削減計画『ZERO30ロードマップ2023』に基づき、CO₂削減活動を展開してきました。『ZERO30ロードマップ2023』におけるCO₂排出量の対象となるエネルギーは、施工活動では「電力」「建設機械で使用する燃料（軽油）」「ガソリン」「重油」「灯油」の5種類となります。

2023年4月～2024年3月のCO₂排出実績は34.6千t-CO₂となりました。売上高の増加に伴い2022年度実績に対して約2.6千t-CO₂の増加となりましたが、CO₂排出原単位2022年度実績に対して約1t-CO₂/億円減少しています。これは、『ZERO30ロードマップ2023』における主要施策である、再エネ電力の導入が進んでいることが大きな要因です。

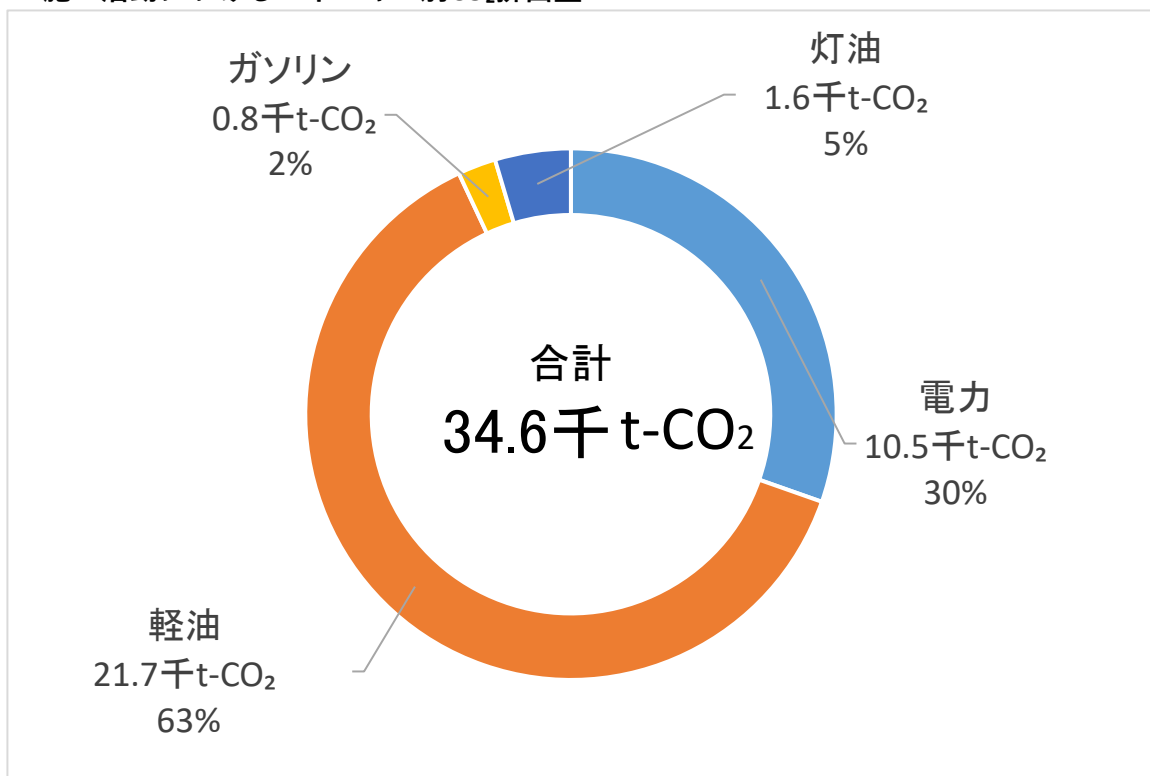
<国内施工活動によるCO₂排出量の推移>



※施工のCO₂排出量はサンプリング調査による(下図、同様)

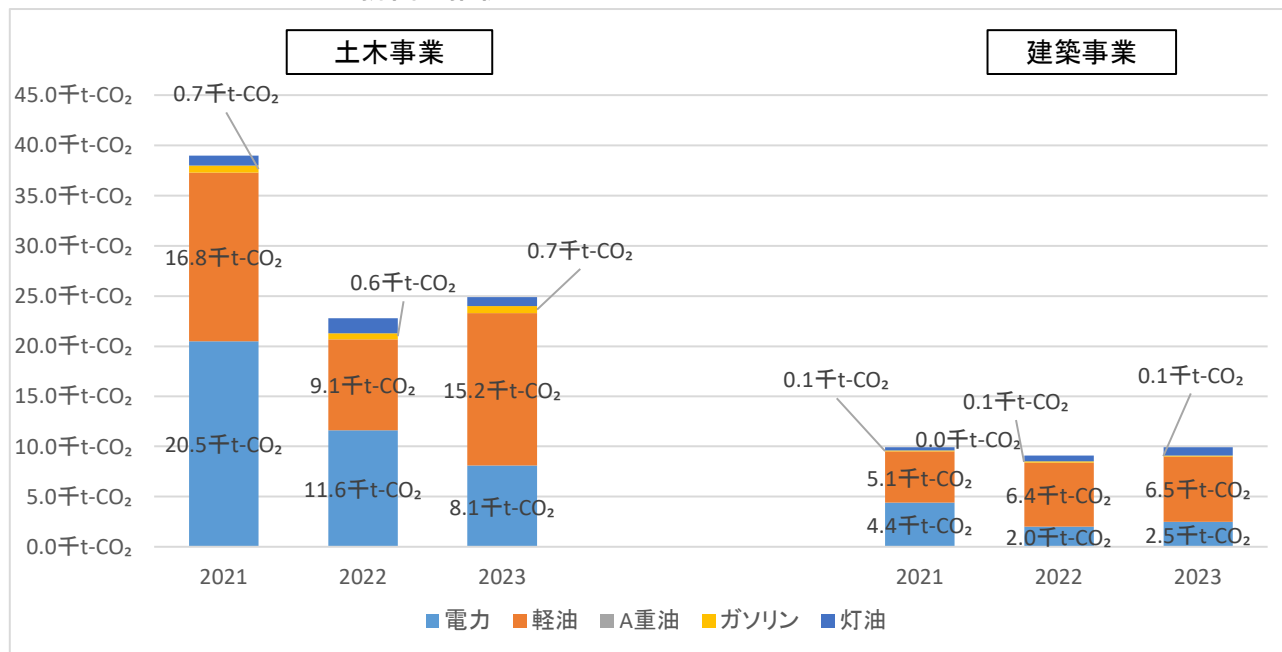
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による(下図、同様)

<施工活動におけるエネルギー別CO₂排出量>



■国内施工活動におけるCO₂排出量〈2〉

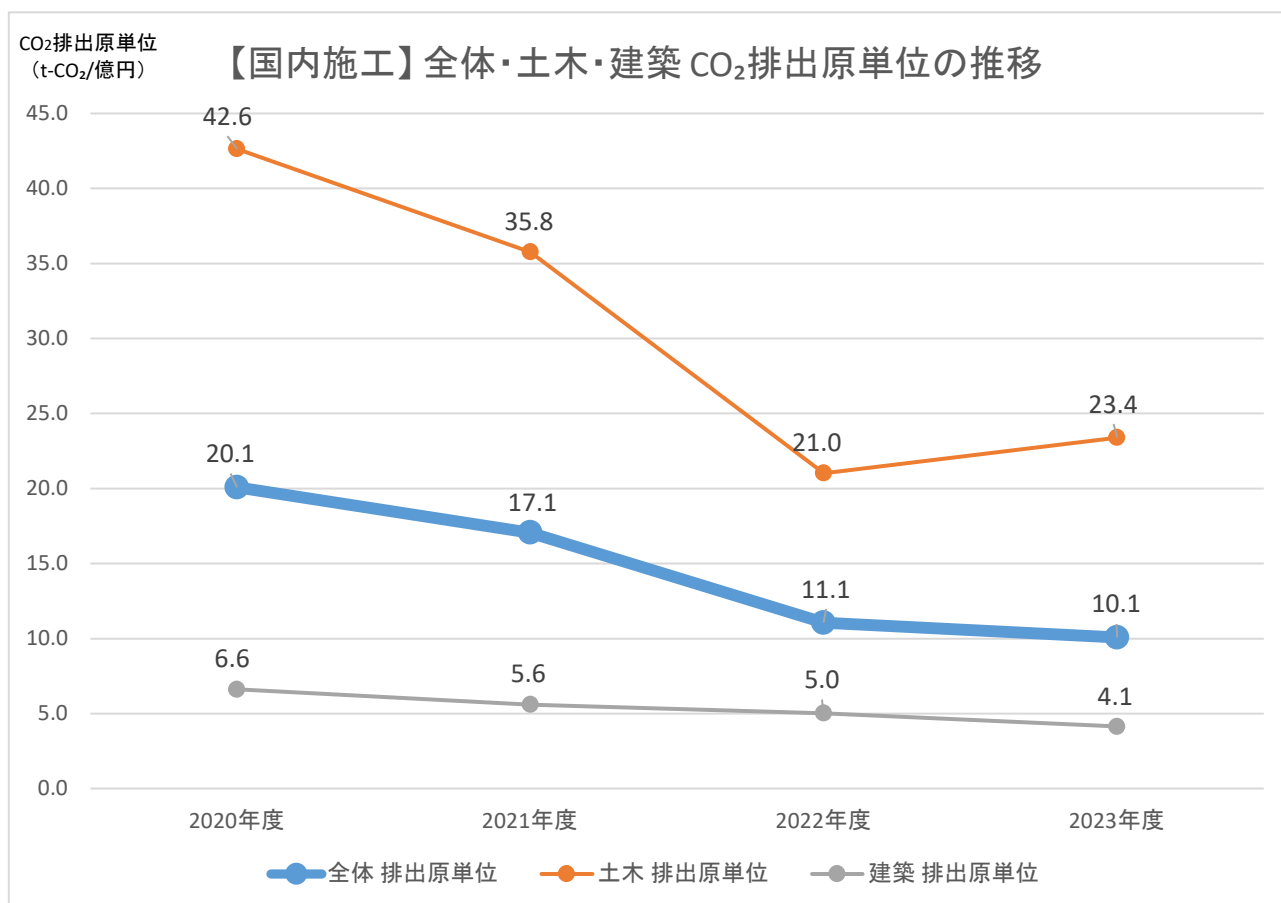
＜土木別エネルギー別CO₂排出量推移＞



※施工のCO₂排出量はサンプリング調査による(下図、同様)

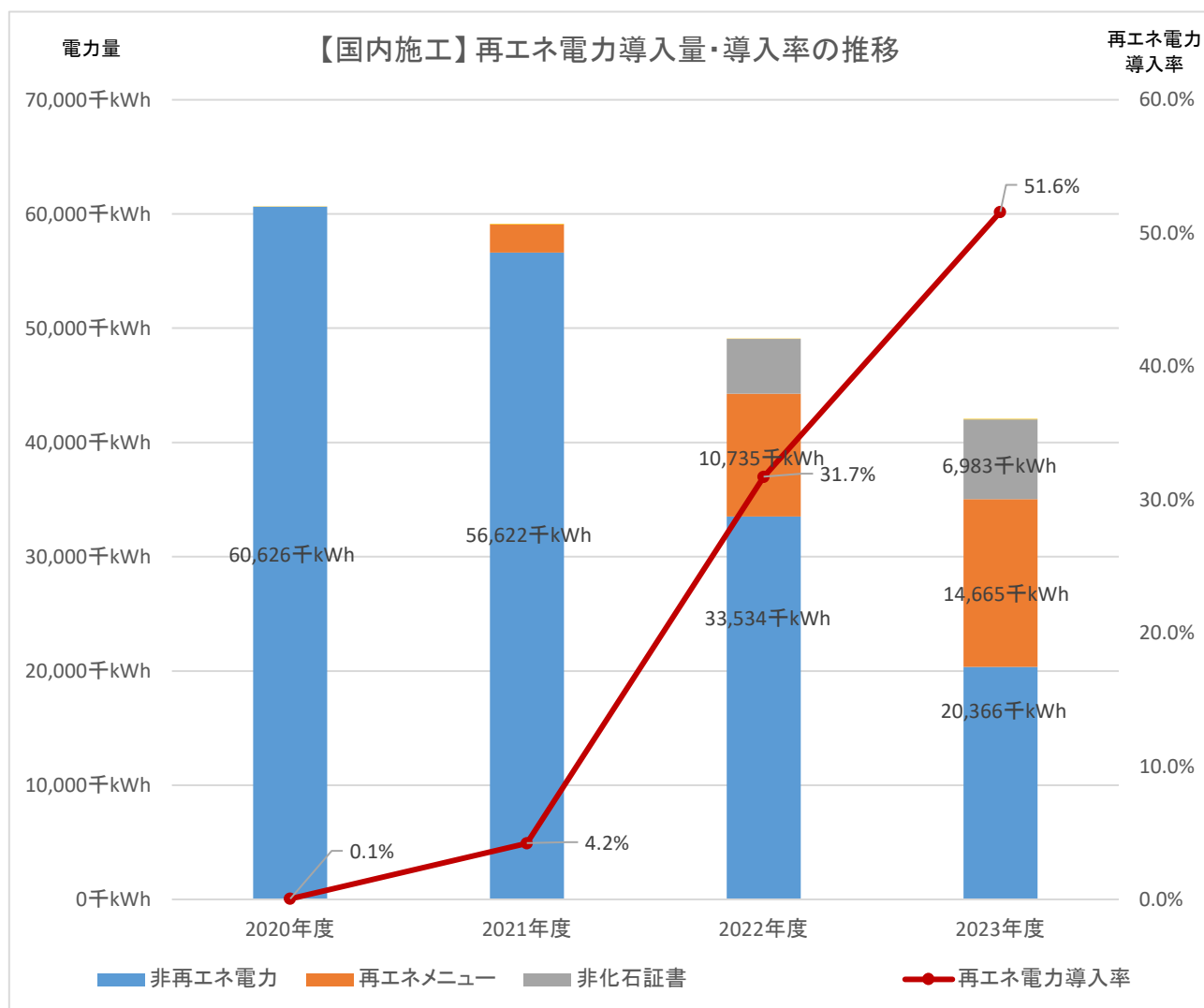
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による(下図、同様)

＜CO₂排出原単位の推移＞



■国内施工活動におけるCO₂排出量 <3>

<再エネ電力導入量・再エネ電力導入率の推移>



■国内グループ会社のCO₂排出量

2023年4月～2024年3月 の西松建設連結子会社のCO₂排出量は以下の通りです。不動産管理、保険代理店業などを行う「西松地所」、植物工場における野菜の生産を行う「サイテックファーム」2社の構成となっています。

< 連結子会社のCO₂排出量 >

	主な事業内容	CO ₂ 排出量	主なCO ₂ 起源
西松地所株式会社	不動産管理、保険代理店業	360t-CO ₂	賃貸不動産、オフィスワークの電力
株式会社サイテックファーム	植物工場における野菜の生産	70t-CO ₂	工場で野菜の生育に使用するLED照明の電力

※国内グループ会社のCO₂は事業活動に伴い消費されるエネルギー（電力およびガソリン）に基づく
※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

■スコープ別CO₂排出量(グループ全体)

2020年度～2023年度の事業活動(グループ全体)に関するスコープ1,2、およびスコープ3(事業の上下流における間接的なCO₂排出量)は以下の通りです。

<スコープ1,2>

スコープ	算定の位置付け	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
スコープ1	マーケット基準 ※使用燃料に関して温対法指定のCO ₂ 排出係数を使用	34.3千t-CO ₂	25.8千t-CO ₂	20.3千t-CO ₂	26.5千t-CO ₂
スコープ2	マーケット基準 ※使用電力に関して各電力会社公表のCO ₂ 排出係数を使用	35.9千t-CO ₂	36.9千t-CO ₂	22.7千t-CO ₂	14.5千t-CO ₂
スコープ2	ロケーション基準 ※使用電力に関して日建連指定のCO ₂ 排出係数を使用	34.9千t-CO ₂	37.7千t-CO ₂	31.1千t-CO ₂	23.4千t-CO ₂
マーケット基準合計		70.2千t-CO ₂	62.7千t-CO ₂	43.0千t-CO ₂	41.0千t-CO ₂

※国内施工のCO₂排出量はサンプリング調査による

<スコープ3>

カテゴリー	算定範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1 購入した製品・サービス	・当社が購入した製品の内、購入量を把握している主要資材(鉄筋、コンクリート、セメント、H型鋼、鋼管杭、鋼矢板、鉄骨、建設用金属製品、セメント製品)の資源採取から製造段階までの排出量	582.3千t-CO ₂	539.4千t-CO ₂	726.4千t-CO ₂	802.8千t-CO ₂
2 資本財	・当社が購入または取得した資本財の建設・製造および輸送から発生する排出量 (2023年度設備投資総額から推計)	63.3千t-CO ₂	105.9千t-CO ₂	90.2千t-CO ₂	49.1千t-CO ₂
3 スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	・当社が購入した電力および燃料の製造過程における上流側の排出量	4.2千t-CO ₂	9.9千t-CO ₂	6.8千t-CO ₂	5.9千t-CO ₂
4 輸送、配送(上流)	・当社が購入した主要資材の物流(購入元から現場までの輸送)に伴う排出量	13.1千t-CO ₂	26.8千t-CO ₂	24.6千t-CO ₂	33.9千t-CO ₂
5 事業から出る廃棄物	・当社の事業活動から発生する廃棄物(有償のものを除く)の、自社以外での「廃棄」と「処理」に係る排出量、および廃棄物の輸送に関わる排出量	21.2千t-CO ₂	23.8千t-CO ₂	18.4千t-CO ₂	22.0千t-CO ₂
6 出張	・当社社員が出張時に使用する交通機関の燃料・電力消費による排出量、宿泊時の燃料・電力消費等による排出量(対象は国内出張のみ)	0.4千t-CO ₂	0.4千t-CO ₂	0.4千t-CO ₂	0.4千t-CO ₂
7 雇用者の通勤	・当社社員が、通勤時に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量 (協力会社社員の当社出張所への通勤は含まない)	1.3千t-CO ₂	1.4千t-CO ₂	1.2千t-CO ₂	1.5千t-CO ₂
11 販売した製品の使用	・当社が施工した建築物の使用に伴う排出量の内、建築設備エネルギーの消費による排出量 (建築物エネルギー消費量調査46報に基づき推計) (算出した建物種別ごとの年間CO ₂ 排出量に建物供用期間を乗じて算出) (建物ごとのBEI、再エネ電力導入状況を考慮)	3,191.8千t-CO ₂	2,481.2千t-CO ₂	2,406.0千t-CO ₂	1,673.2千t-CO ₂
12 販売した製品の廃棄	・当社が施工した建造物の廃棄や処理に係る排出量(当社が購入した主要資材の物量を「販売した製品」の物量と仮定し、これらが将来廃棄または処理されるものとして算定)	29.2千t-CO ₂	25.5千t-CO ₂	30.4千t-CO ₂	32.1千t-CO ₂
13 リース資産(下流)	・当社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産(2024年3月末現在)の運用に伴う排出量 (共用部分の排出量はスコープ2となるため、賃貸部分のみの排出量)	22.1千t-CO ₂	23.2千t-CO ₂	22.3千t-CO ₂	25.0千t-CO ₂
合計		3,928.9千t-CO ₂	3,237.5千t-CO ₂	3,326.7千t-CO ₂	2,645.9千t-CO ₂

※CO₂排出量の算定は温対法指定のCO₂排出係数による

※スコープ3のカテゴリー8,9,10,14,15は当社の事業活動には該当しない

■取水量、建設廃棄物、電子マニフェスト導入率の推移

< 取水量の推移 >

取水量	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国内施工 水道水	310.3千m3	272.4千m3	330.5千m3	424.4千m3
国内施工 水道水以外	512.1千m3	238.9千m3	244.9千m3	27.3千m3
国内施工 合計	822.4千m3	511.3千m3	575.4千m3	451.7千m3
国内オフィス 水道水	14.8千m3	13.7千m3	14.9千m3	15.7千m3
国内オフィス 水道水以外	0.0千m3	0.0千m3	0.0千m3	0.0千m3
国内オフィス 合計	14.8千m3	13.7千m3	14.9千m3	15.7千m3
国際施工	83.8千m3	364.8千m3	372.5千m3	259.5千m3
国際オフィス	1.0千m3	1.0千m3	1.1千m3	1.5千m3
国際 合計	84.8千m3	365.8千m3	373.6千m3	261.0千m3
西松地所	0.4千m3	0.4千m3	0.5千m3	0.5千m3
サイテックファーム	3.2千m3	4.6千m3	4.8千m3	0.3千m3
関連会社 合計	3.6千m3	5.0千m3	5.3千m3	0.8千m3
取水量 合計	925.6千m3	895.8千m3	969.2千m3	729.2千m3
水道水 合計	413.5千m3	656.9千m3	724.3千m3	701.9千m3
水道水以外 合計	512.1千m3	238.9千m3	244.9千m3	27.3千m3

※国内施工の取水量はサンプリング調査による

< 建設廃棄物の推移（国内施工）、有害廃棄物（アスベスト等）の推移 >

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
建設廃棄物排出量	406.6千t	487.2千t	452.3千t	697.3千t
内 有害廃棄物搬出量※1	3.4千t	31.2千t	1.5千t	1.8千t
最終埋立処分率※2	2.2%	2.4%	2.4%	2.1%

※1 石綿含有産業廃棄物搬出量＋特別管理産業廃棄物搬出量

2021年度は石綿が含有するトンネル残土が発生したことから数量が増加した

※2
$$\frac{(\text{建設廃棄物搬出量} \langle \text{最終埋立分} \rangle - \text{有害廃棄物搬出量} \langle \text{最終埋立分} \rangle)}{(\text{建設廃棄物搬出量} + \text{現場内利用量} - \text{有害廃棄物搬出量})} \times 100\%$$

< 電子マニフェスト導入率の推移（国内施工） >

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電子マニフェスト導入率	100%	100%	100%	100%

独立第三者の保証報告書

2024年6月21日

西松建設株式会社
代表取締役社長 高瀬 伸利 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島隆史

1.目的

当社は、西松建設株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、2023年度の国内外グループ CO2 排出量（スコープ 1）26.5 千 t-CO₂、（スコープ 2 ロケーションベース）23.4 千 t-CO₂、（スコープ 2 マーケットベース）14.5 千 t-CO₂、（スコープ 3 カテゴリ 1,2,3,4,5,6,7,11,12,13 計）2.65 百万 t-CO₂e、エネルギー消費量 212GWh、廃棄物排出量 705 千 t、取水量 729 千 m³（以下、総称して「パフォーマンス指標」という）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、パフォーマンス指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。パフォーマンス指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2.保証手続

当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 ならびに ISAE3410 に準拠して本保証業務を実施した。

当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・算定方針について担当者への質問
- ・算定方針の検討
- ・算定方針に従ってパフォーマンス指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3.結論

当社が実施した保証手続の結果、パフォーマンス指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上